

印旛のはにわ〜どろいしてムササビ?〜



ムササビ形埴輪
(成田市指定文化財)

令和元年 **7月8日(月)** ▶ 令和2年 **6月19日(金)**

会場…(公財)印旛郡市文化財センター考古資料展示室

開館時間…9:00~17:00

※土・日・祝日・12月27日~1月6日は休館

主催 (公財)印旛郡市文化財センター

後援 印旛郡市文化財行政担当者連絡協議会



関連イベント

〈記念講演会〉

日時…令和元年10月5日(土) 13:15~16:00(12:15開場) **当日受付・無料**

会場…国立歴史民俗博物館講堂(千葉県佐倉市城内町117)

講演…「印旛のはにわ」根本 岳史(印旛郡市文化財センター)

「ムササビ形埴輪の意味-動物埴輪にこめられたもの-」日高 慎(東京学芸大学)

〈はにわを作ろう! はにわデー〉

日時…令和元年8月20(火)・28日(水) 9:00~11:00

対象…小学生以下 **要申込** 会場…当センター



◇交通機関◇東関東自動車道佐倉ICから県道65号線経由で10分/JR佐倉駅からバス約7分、ちばグリーンバス「石川入口」下車



公益財団法人

印旛郡市文化財センター

千葉県佐倉市春路1-1-4 TEL 043-484-0126 <http://www.inba.or.jp/>

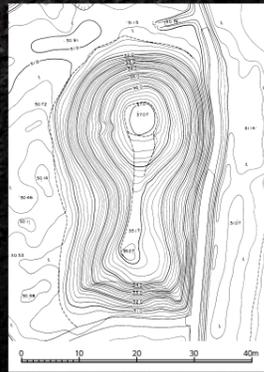


QRコードを読み込んでスマートフォンサイトへ今すぐアクセス!

1 埴輪のはじまり —その成立と系譜—

古墳時代における円筒埴輪・朝顔形埴輪の祖形は、吉備地方における弥生時代の特殊器台・特殊壺であると考えられています。そこからはるか遠方のここ千葉県印旛郡においては、その出現は古墳時代中期初頭（5世紀初頭）まで遅れ、印西市鶴塚古墳が本格的に器台形埴輪と特殊壺を合わせて樹立した最初期の古墳であるとされています。しかしその後には定着せず、埴輪のない古墳の時代が続きます。

中期後半（5世紀後半）になると、千葉県内でも埴輪を樹立する古墳が増加します。印旛郡内においては、成田市上福田4号墳がその最たる例として挙げられます。この古墳は全長48mの大型の前方後円墳で、調査の結果、二重周溝をもつ古墳であることが確認されています。その周溝内からは、人物や鶏をかたどった形象埴輪、墳丘に樹立したと考えられる円筒埴輪が大量に見つかっています。印旛郡内の前方後円墳でこのようなバリエーション豊かな埴輪を用いて祭祀を行ったのは、この上福田4号墳が最初であると考えられています。



上福田4号墳地形測量図



鯨面埴輪



鶏形埴輪



円筒埴輪

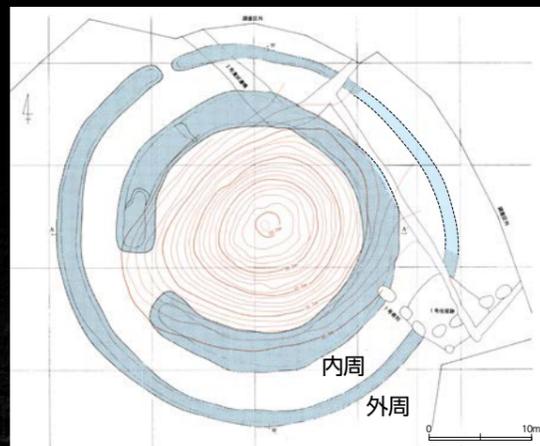
図版出典：千葉県教育委員会 1998『千葉県重要古墳群測量調査報告書—成田市上福田古墳群・成田市北須賀勝福寺古墳群』

2 多様な形象埴輪 —独自のはにわ—

後期前半（6世紀前半）に入ると、関東でも多くの地域で埴輪を設置する古墳がつくられるようになります。

成田市南羽鳥正福寺遺跡1号墳は、上福田4号墳と同様に二重周溝をもつ直径25mほどの円墳です。この古墳からは、3体の人物埴輪に加え、ムササビやボラ、鶏や水鳥といった多種多様な動物埴輪のほか、多数の円筒埴輪が出土しました。埴輪は内側の周溝（内周）から集中して見つかっています。このような動物埴輪は、畿内の大型古墳でもあまり確認されておらず、関東、特に北関東や東関東での出土が多い点が特徴です。なかでも、ムササビ形の埴輪は、全国で唯一の出土例であり、非常に特殊な形の埴輪として注目されています。

埴輪の種類は、被葬者あるいは埋葬者の意図を受けて制作されたものと推測され、多種多様な動物をかたどった埴輪は当時の人々の死生観を反映していると考えられます。印旛地域の古墳時代の葬送は、ヒトだけではなくトリやケモノを重要視した、神聖かつ権威的な儀式だったのではないのでしょうか。



墳丘測量図



形象埴輪（成田市南羽鳥正福寺遺跡1号墳）

図版出典：(財)印旛都市文化財センター 1996『南羽鳥遺跡群I』

印旛郡域内における円筒埴輪の変遷

	中期末～後期初頭（5世紀末～6世紀初頭）		下総型埴輪の直前段階 後期前半（6世紀前半）			下総型埴輪 後期後半（6世紀後半）	
朝顔形							
円筒形							
	印西市立田台第2遺跡 SM-02（円墳）	成田市上福田4号墳（前方後円墳）	成田市南羽鳥高野遺跡1号墳（前方後円墳）	栄町龍角寺101号墳（造出付円墳）	成田市正福寺遺跡1号墳（円墳）	印西市大木台2号墳（円墳）	印西市古井戸原2号墳（前方後円墳）

消滅

中期後半から後期初頭では、円筒埴輪は2条3段の構成で、胴部が太いものが多くみられます。朝顔形埴輪は肩部の張りが強く、器高の低い点の特徴です。後期前半に入ると、大型の朝顔形埴輪とやや細身化した円筒埴輪が出土します。円筒埴輪は4条5段のもの3条4段のものが混在していますが、前者は前方後円墳、後者は円墳から見つかっており、墳丘の形状と埴輪の規格に関係があったのではないかと推測されます。後期後半には、当地域を含む下総地域全体に「下総型埴輪」とよばれる特徴的な埴輪が分布します。円筒埴輪はさらに細く、3条4段のみで構成されます。朝顔形埴輪は口縁部が直線的に立ち上がるものが主体となります。この段階をピークとして、印旛の埴輪祭祀は急速に消滅してしまいます。

(S=1/20)

3 埴輪祭祀の終焉

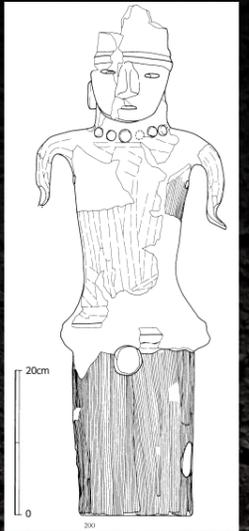
—下総型埴輪の隆盛と衰退—

後期後半（6世紀後半）になると、「下総型埴輪」と呼ばれる定型化した埴輪が作られるようになります。たとえば、印西市大木台2号墳の人物埴輪の手は、指を表現しないシャモジ形で、顔面は粘土板を貼りつけて成形する等の特徴がみられます。このような作風の埴輪は他の古墳からも出土していることから、同じ工人集団が製作したと考えられます。なお、大木台2号墳は直径17mの小円墳ですが、11体の形象埴輪と77点もの円筒埴輪が二重に巡らされていることから、大規模ではない古墳にも多量の埴輪が並べられていたことがわかりました。

下総型埴輪の分布域は非常に広く、現在の印旛郡を中心に遠くでは東京都葛飾区までみられます。工人集団は広範囲の古墳に埴輪を供給しており、このことは当時の地域間の交流を反映していると考えられます。しかし、このような埴輪生産は長続きせず、突然終わりを迎えてしまいます。

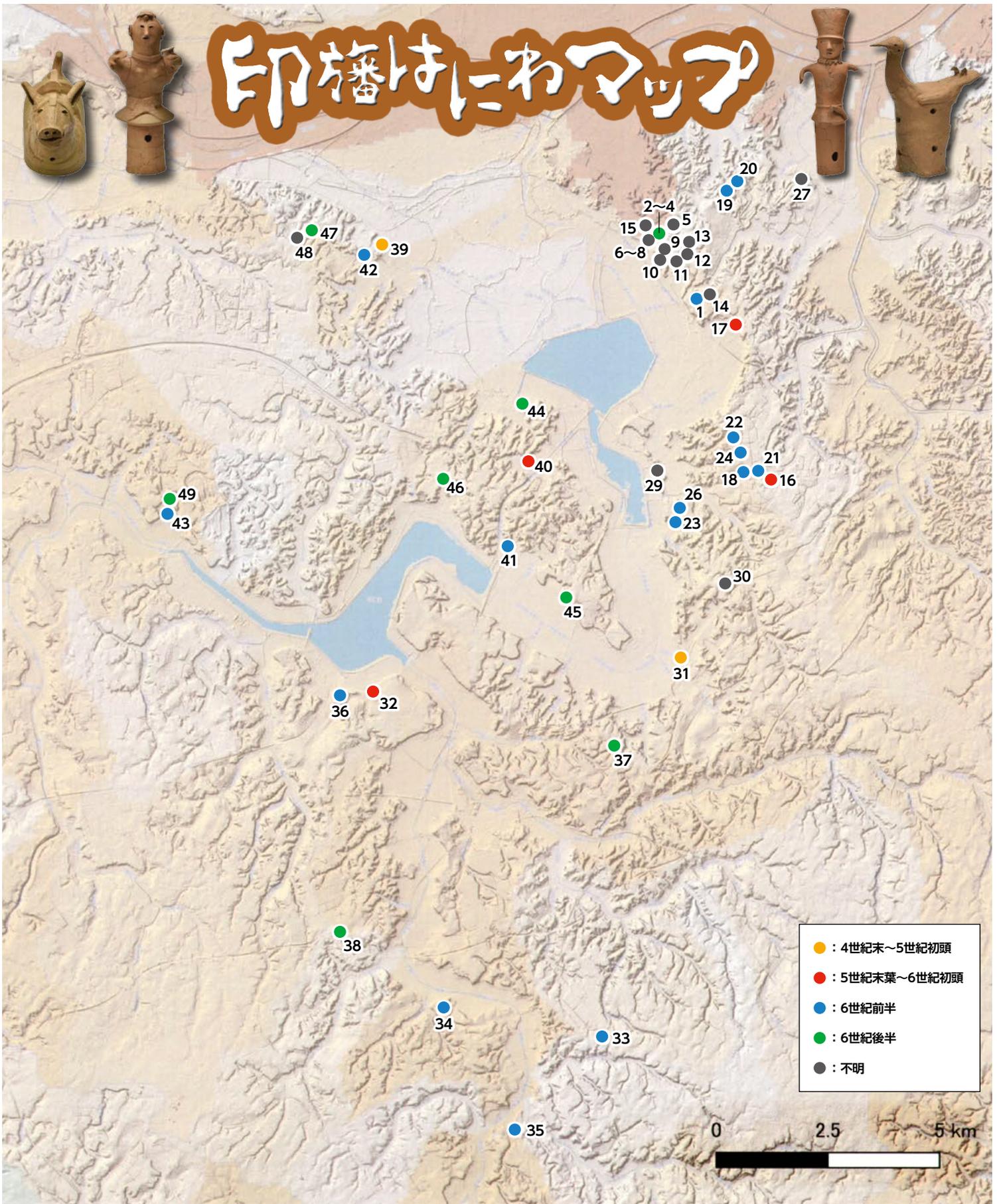


下総型埴輪が出土した主な古墳（原図 犬木努 2013）茨城県立歴史館 2013「はにわの世界」に削除筆



大木台2号墳出土人物埴輪

図版出典：(財)千葉県文化財センター 1996『一般国道464号県単道路改良事業埋蔵文化財調査報告書』



1. 亀角寺 101 号墳 2. 亀角寺 112 号墳 3. 亀角寺 113 号墳 4. 亀角寺 8 号墳 5. 亀角寺 4 号墳 6. 亀角寺 16 号墳 7. 亀角寺 17 号墳 8. 亀角寺 19 号墳 9. 亀角寺 42 号墳 10. 亀角寺 44 号墳 11. 亀角寺 57 号墳 12. 亀角寺 68 号墳 13. 亀角寺 70 号墳 14. 亀角寺 103 号墳 15. 亀角寺 9 号墳 16. 瓢塚 32 号墳 17. 上福田 4 号墳 18. 公津原埴輪窯跡 19. 南羽鳥高野遺跡 1 号墳 20. 南羽鳥正福寺遺跡 1 号墳 21. 船塚古墳 (天王・船塚 1 号墳) 22. 天王塚古墳 (天王・船塚 31 号墳) 23. 台方 4 号墳 24. 石塚古墳 (天王・船塚 16 号墳) 25. 荒海 15 号墳 26. 台方八尺坊遺跡内古墳 27. 南羽鳥中岫第 2 遺跡 1 号墳 28. 天王・船塚 22 号墳 29. 下方五郎台 I 遺跡 (五郎台 3 号墳か) 30. 宗吾・飯仲 5 号墳 31. 大鷲神社古墳 32. 角来野谷 1 号墳 33. 岩富木村留 8 号墳 34. 馬渡姫宮 1 号墳 35. 飯塚 16 号墳 36. 白井田小笹台遺跡 3 号墳 37. 将門 2 号墳 38. 清水遺跡 S08 号墳 (物井 14 号墳) 39. 鶴塚古墳 40. 立田台第 2 遺跡 SM-02 41. 山田谷々津古墳 42. 小林 1 号墳 43. 西ノ原 2 号墳 44. 吉高山王古墳 45. 平賀古井戸原 2 号墳 46. 大木台 2 号墳 47. 道作 1 号墳 48. 道作 3 号墳 49. 西ノ原 1 号墳